

つぎの文しよを 読んで、 もんだいに 答えましよう。

雪がつもった朝、学校へ行くとちゅうで、ぼくは道のわきに、赤い手ぶくろが一つおちているのを見つけた。小さな手ぶくろだ。

「だれのだろう。」

ぼくは、手ぶくろをひろって、あたりを見回した。でも、だれもない。このままにしておくと、雪にうもれて見えなくなってしまう。

ぼくは、手ぶくろを、そばのかきねの上に、ひよいとのおせておいた。ここなら、おとした人が気がつくかもしれない。

帰り道、かきねを見ると、手ぶくろはなくなっていた。

そのとき、むこうから、小さな女の子が、お母さんと手をつないで歩いてきた。女の子は、赤い手ぶくろを、りょう手にはめている。

「かきねの上にね、ちゃんとおいであつたの。」

女の子が、うれしそうにお母さんに話している。

ぼくは、なんだかくすぐったいような気もちになって、雪の道をかけ出した。

(このもんだいのための書きおろし)

(一) ぼくは、道のわきで、何を見つけましたか。文しょうから十字までで書きぬきましょう。

[illegible]

(二) ぼくが、手ぶくろをかきねの上にのせたのは、なぜですか。アゝウから一つえらびましょう。

ア 手ぶくろを、自分のものにするため。

イ 雪にうもれないで、おとした人が気がつくようにするため。

手ぶくろを、かわかすため。

(三) 帰り道に会った女の子は、赤い手ぶくろをどうしていましたか。文しようから十字までで書きぬきましょう。

[illegible]

(四) 「くすぐったいような気もち」とありますが、このときのぼくの気もちを、三十五字までで書きましょう。

[illegible]